

令和4年度 GIGA校内研修 実践報告

学校名 (石川県立加賀聖城高等学校)

月	研修テーマ【研修形態】	担当	関連する行事等
4月	・年間計画の作成	情報化推進員	推進リーダーだけでなく、情報化推進員とICT支援員、各教科担当と協力しながら、学校全体で校内研修を実施している。
5月	・年間計画の共通理解【職員打ち合わせ】 ・オンライン授業の仕方【校内研修】 ・ロイロノートの使い方①【校内研修】 ・キーボード練習週間【通常授業】	情報化推進員 ICT支援員 情報化推進員 全教員	
6月	・ICT機器を活用した実践授業①保健【公開授業】 ・ICT機器を活用した実践授業②英語【通常授業】 ・ロイロノートの使い方②【校内研修】	保健体育科教員 英語科教員 保健体育科教員	
7月	・Chromebook持ち帰りルールの策定【職員打ち合わせ】	情報化推進員	
中間目標	・教員がオンライン授業に対応することができる。 ・生徒がロイロノートを使って、意見を提出することができる。		
8月	・情報モラル研修【校内研修】	GIGA推進リーダー	1年間を通じて、授業実践と校内研修を確実に実施できている。
9月	・クラスルームの作り方【校内研修】 ・ロイロノートを使った授業実践①社会【公開授業】	ICT支援員 社会科教員	
10月	・クラスルームの使い方【校内研修】	ICT支援員	
11月	・iPadを活用した授業【公開授業】 ・ロイロノートを使った授業実践②家庭【公開授業】	理科科教員 家庭科教員	
12月	・AIに関する授業「AIで創る未来」【通常授業】	教頭	
中間目標	・教員は日常的にICT機器を用いた教材の作成、生徒への提示ができる。 ・教員は、ロイロノートを用いて双方向型授業を展開することができる。		
1月	・ロイロノートやChromebookを活用した発表を行う(錦城山プロジェクト生徒最終発表会)【授業】 ・Google Formの使い方【校内研修】	全教員 ICT支援員	
2月	・Formを用いたアンケート【授業アンケート等】	教頭	
3月	・クラスルームの立ち上げ、削除の仕方について【校内研修】 ・来年度のGIGA校内研修計画の原案作成	ICT支援員 情報化推進員	
目標「令和4年度末にめざすICTを活用した学びの姿」			
<ul style="list-style-type: none"> ・教員、生徒ともにオンライン授業に対応することができる。 ・教員は日常的にICT機器を用いた教材の作成、生徒への提示ができる。 ・生徒は基礎基本、振り返りの学習にChromebook等を活用することができる。 ・教員はロイロノートを使って双方向型授業を展開することができる。 ・「総合的な探究の時間」においてロイロノートのシンキングツールなどを活用することにより、さまざまな意見や考えをまとめ、発表することができる。 			

Googleの標準アプリと授業支援ソフト（ロイロノート）の両方を使うことができることにより、授業での活用の幅が広がってきている。

成果

- ・教員は、ロイロノートだけではなくクラスルーム等も用いて、双方向型授業をすることができるようになった。
- ・マニュアルの整備により、教員にとっていろんなアプリを活用しやすい環境が整った。
- ・ロイロノートを使って、生徒は意見交換や意見の共有、発表をすることができるようになった。
- ・校務にもGIGAを活用し、ペーパーレス化や業務負担の軽減に繋げることができた。

課題

- ・オンライン授業の仕方を研修したが、授業で活用する場面を設けることができなかつたので、授業で活用する機会を設定する必要がある。
- ・情報化推進員に設定と運営管理がより一極集中化して、大半の教員の業務負担は減ったものの、特定の教員の業務負担が増えた。次年度は各自が管理できる環境を整え、GIGAスクールの運営を全員で行える体制を整える必要がある。
- ・教員により、活用回数に差が今年度も現れたので、次年度はあまり使わない先生にもより活用してもらえるような取り組みを取り入れる。
- ・教員はChromebookを使い慣れてきたが、生徒はまだ使い慣れていない状況である。特に今年の1年生と同様に今後の新入生は不登校経験者であることが想定される。そのためChromebookを触ったことがない生徒が入ってくる可能性が高い。どのような生徒にも対応できるように、生徒が見て参考になるようなマニュアル作りが必要である。